

I 平成 23 年度の主な取組み

平成 23 年度に行った環境保全施策の中で、地球温暖化・省エネルギー対策や循環型社会の形成、みどりに関する多様な取組み等、区の環境の現況や課題を踏まえ、特に力を入れたものについて報告します。

1 地球温暖化・省エネルギー対策の推進

(本編 P.6～7)

地球温暖化対策として例年行っている住宅用新エネルギー及び省エネルギー機器設置費助成では、例年以上の申請があり、再生可能エネルギーへの意識の高まりがうかがえました。

■ 住宅用新エネルギー及び省エネルギー機器設置費を助成しました

区内の住宅において、二酸化炭素排出量の削減に貢献する新エネルギー機器（太陽光発電システム）や省エネルギー機器（CO₂ 冷媒ヒートポンプ給湯器、潜熱回収型給湯器）を設置する区民の方に対して、設置経費の一部を助成しました。

<平成 23 年度実績>

助成対象機器	申請件数	助成件数
太陽光発電システム	196 件	104 件
CO ₂ 冷媒 ヒートポンプ給湯器	14 件	7 件
潜熱回収型給湯器	119 件	53 件

■ エコドライブ教習会を開催しました

自動車の省エネルギー運転の普及を図るため、区内自動車教習所と東京都環境局の協力を得て、エコドライブ教習会を行っています。参加者のエコドライブ実践による平均燃費改善率は、教習時の道路事情にもよりますが、25.7%でした。



<エコドライブのコツの一つ：ふんわりアクセル>

2 循環型社会の形成に向けて

(本編 P.11)

目黒区の高紙回収は、段階的に集団回収への一元化を進めてきましたが、平成 24 年 3 月には区内全域において、区による回収を終了し、町会・自治会等が実施する集団回収への一元化が完了しました。事業系高紙に関しては、区による戸別回収を希望する事業者の登録受付を開始しました。

■ 高紙の回収方法を、集団回収に全面移行しました

経費節減および区民との協働による資源リサイクル活動を一層効果的に運用するため、区の回収と町会・自治会などによる集団回収が並存する状態から、「ごみや資源の集積所を利用した集団回収」へ完全移行しました。



<集団回収中の車両>

3 環境学習の推進

(本編 P.8~10)

地域や家庭から積極的に環境活動を進めていくことができる人材を育成することを目的とし、環境推進員（環境ナビゲーター）養成講座を実施するとともに、修了生の活動をサポートする取組みを進めました。

身の回りの環境から地球環境まで幅広く取り上げた、子どもから大人まで楽しめる参加・体験型のイベント「ふえすた環境 in 目黒」を平成 18 年度から開催しています。平成 23 年度は、6 月 12 日に中根小学校及び中根住区センターで開催しました。

■ 環境推進員（環境ナビゲーター）養成講座（4 期）を開催しました

環境問題に関心を持っている区民を対象に「この先のエネルギーはどうする？」をテーマとして、講義やワークショップ、ディスカッションを取り入れた 6 回の連続講座を開催しました。平成 23 年度は、25 人の修了生を環境ナビゲーターとして認定し、認定証を交付しました。



<環境ナビゲーター認定証>



<ソーラー発電所の見学>



<ディスカッションの様子>

■ 環境推進員（環境ナビゲーター）をサポートしています

● ステップアップ講座

環境ナビゲーターの交流と活動の活性化を目的に、エコライフめぐろ推進協会と協働によるステップアップ講座を開催しました。

● 環境ナビゲーター交流会

環境ナビゲーター交流会を開催し、環境ナビゲーター同士の活動等の情報交換を行いました。14 人が参加し、個人・環境活動団体同士のつながり強化に向け、活発な意見交換が行われました。



<環境ナビゲーター交流会>

■ ふえすた環境 in 目黒 2011 を開催しました

平成 23 年度は、「かけがえのない地球のために、今私たちにできること～楽しくエコ活コツコツと～」をテーマに開催しました。53 の団体が参加し、当日は家族連れを中心に約 2,000 人が来場しました。最初の開催から 6 年目を迎え、地区の住民による実行委員会を中心に、省エネルギーに配慮して運営しました。



<目黒ナビ子の演奏>

4 みどりに関する多様な取組み

(本編 P.12~13)

みどりは、ヒートアイランド現象の緩和、都市景観の向上、生物多様性の確保、都市防災への寄与などとともに、人々にうるおいと安らぎをあたえ、安全で安心できる都市生活を支えてくれるなど多様な効用をもっています。平成 23 年度は次のような取組みを行いました。

■ 新たなみどりの拠点整備を行っています

● 大橋一丁目公園（仮称）の整備

首都高速道路の大橋ジャンクション屋上部に約7,000㎡の公園を整備しています。勾配のあるループ状の空間を活かし、緑豊かな回遊式の屋上庭園とするとともに、区民等が緑化活動できるコミュニティの場も整備していきます。開園は、平成25年3月（予定）です。



＜大橋一丁目公園(仮称)完成予想図＞

■ 身近なみどりの取組みへの支援を行いました

公園の清掃・花壇管理や、イベント企画運営活動を行うボランティア団体を「公園活動登録団体」として登録し、支援を行っています。平成23年度には、11の団体が登録し、活動を行いました。

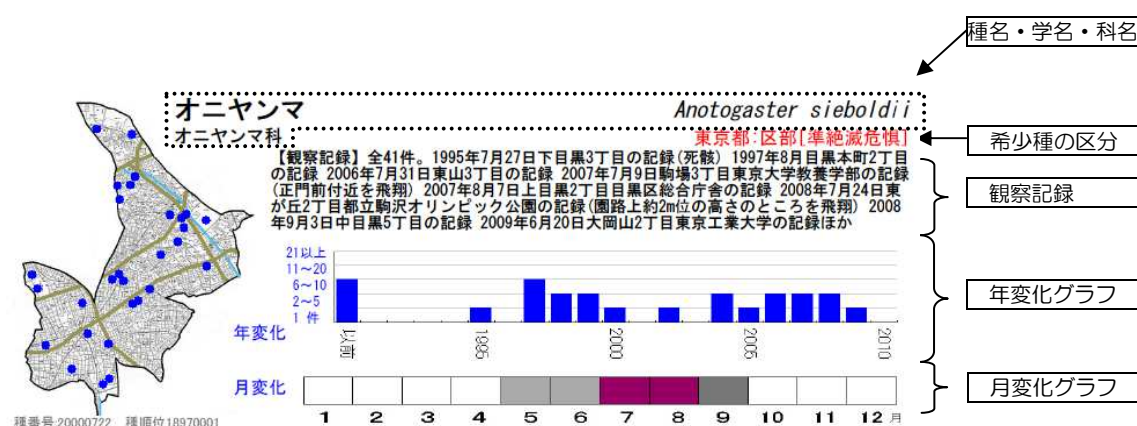


＜住民主体の花壇の手入れ＞

■ 生物多様性に関する取組みを行いました

● 「めぐろいきもの図鑑」を更新しました

区では、自然の変化を記録するため、区民のみなさんから生きものの観察情報を収集しています。「めぐろいきもの図鑑」は、蓄積されたデータをまとめた「いきもの住民台帳」をもとに、目黒区の動植物を写真入りで紹介するものです。平成 23 年度は、観察記録から、区民に特に親しまれている生きもの 10 種の出現場所を示した「いきものマップ」を作り、図鑑に追加しました。



＜オニヤンマのいきもの図鑑＞

いきものマップ

区ホームページからダウンロードができます。

5 環境基本計画の改定

(本編 P.14～15)

環境行政を取り巻く状況は、日々変化しています。さらに、東日本大震災を機に安全安心への関心が高まるとともに、放射性物質対策や節電への啓発、再生可能エネルギーの普及など、環境負荷低減への取組みが求められています。こうした社会経済状況の変化や新たな課題に柔軟に対応するため、環境基本計画（計画期間：平成24～33年度）を改定しました。

■ 計画の基本目標と方針

目指すべき環境像および3つの基本目標は基本的に踏襲し、その実現に向けて、区民、事業者等の環境配慮行動につながる施策を展開するとともに、区民事業者と協力・連携して環境への負荷の少ない社会づくりを進めていきます。

基本目標

- ① 良好な生活環境を守りはぐくむ
- ② ライフスタイルの転換で環境を守りはぐくむ
- ③ 環境を守りはぐくむ人づくり



■ 環境指標の見直し

基本方針ごとの取組みを評価し、目標を設定するのに用いる「環境指標」を再検討しました。環境の状態や負荷の状態を表す従来の客観的な指標に加え、区民の満足度を示す体感的な指標を導入しました。

客観的な指標

環境の状態
環境負荷の状態



体感的な指標

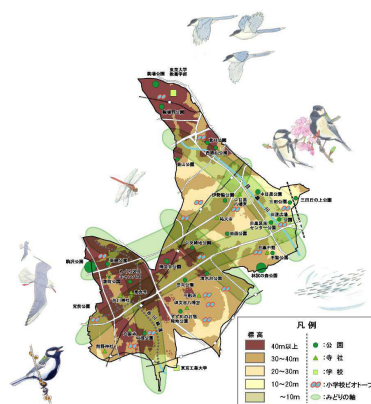
区民の環境への満足度
(区民アンケート結果)

重点プロジェクト

テーマ1

地形・地勢を意識した風とみどりと生き物のネットワークづくり

核となる大規模なみどりの保全や目黒川の水質改善、小さなみどりや水場等の生き物が生息できる場所（ビオトープ的な地点）の創出を図ります。生き物の生息環境の向上を通じて、拠点から面へ風と生き物が行きかう環境を形成します。



テーマ2

節電からはじめるライフスタイルの転換

環境にやさしい行動を賢く選択する暮らし方を「めぐろスマートライフ」と名付け、「目黒ブランド」として確立することを目指し、区民・事業者等へ新しいライフスタイルを提案するしくみ・場をつくります。

テーマ3

地球温暖化対策の推進

中長期を見据えて地球温暖化対策地域推進計画の見直しを図り、住環境整備や取組みの見える化により、未来へ広がる目黒の低炭素社会の実現を目指します。

6 東日本大震災への対応

(本編 P.16～19)

東日本大震災の影響を受け、区では放射線量の測定、節電対策などさまざまな対策を行いました。放射線量測定は、平成 23 年 7 月から開始しました。また節電対策として、平成 23 年 7 月 1 日から 9 月 9 日までの期間、区施設の一部の午後の利用を中止しました。

■ 放射線量の測定を行いました

平成 23 年 7 月から平成 24 年 3 月まで、区立小学校、保育園、公園等 16 施設の校庭、園庭、砂場で空間放射線量の定点測定を実施しました。平成 23 年 11 月には、校庭・園庭を有する施設及び公園等に大幅に拡大して、空間放射線量測定を実施しました。

測定の結果、学校の雨どい下などで、局所的に 5cm の高さで最大 $1.22 \mu\text{Sv/h}$ と放射線量の高い箇所がありましたが、文部科学省が定める除染が必要な線量には達していませんでした。しかし、区では、区民の皆様により安心していただくため、大学等関係機関の助言に基づき放射線量の低減化措置を図りました。



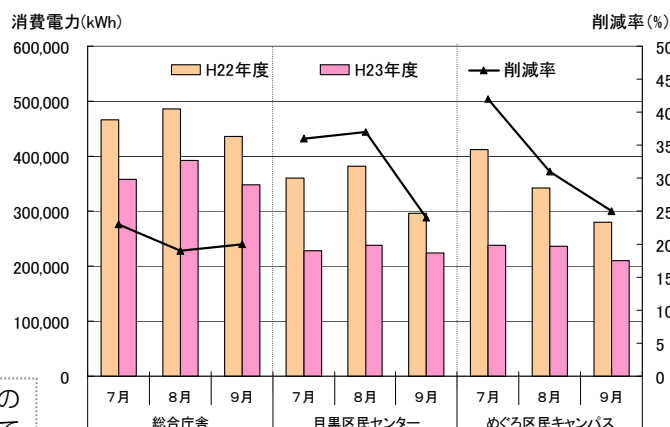
<測定風景>

■ 節電対策を実施しました

● 区の公の施設の一部利用中止

夏期における区施設等の節電対策として、ピーク時電力の使用抑制を行いました。7 月 1 日から 9 月 9 日までの平日、公の施設（会議室、図書館等）の午後の時間帯の利用を中止しました。

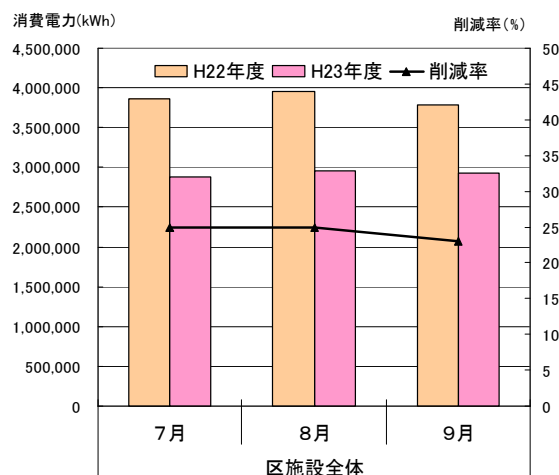
右図で、平成 22 年 7 月めぐろ区民キャンパスの月間電力消費量が多かったのは、同施設において熱電併給システムを修理していたためです。



<大規模施設の月間電力消費量比較及び削減率>

● 15%以上の電力使用抑制をしました

目黒区総合庁舎、目黒区民センター、めぐろ区民キャンパスの大規模需要施設では、7 月から 9 月の消費電力量が、前年比平均約 30%の削減となりました。また小口需要家を含む区施設全体としては、7 月から 9 月の消費電力量が前年比平均 25%の削減となり、目標であった 15%以上の電力使用抑制をしました。



<区施設全体での月間電力消費量比較及び削減率>